

大阪の中小企業など約260社出展ゾーン設置

大阪・関西万博

建設市場にさまざまな話題を提供している「大阪・関西万博」。大阪府の中小企業・スタートアップ約260社が出展し、毎週展示が入れ替わる「展示・出展ゾーン」が大阪ヘルスケアパビリオン（写真右）内に設けられる。

「大阪府知事や大阪市長からも、大阪は中小企業の街であり、より多くのすぐれた中小企業に参加してもらいたい、との思いを聞いており万博に参加できるのは大企業だけというイメージを払しょくすべく企画した」（大阪産業局・稲生雅哉万博共創ビジネス推進部課長）とし大阪産業局と大阪商工会議所が共同で「中小・スタートアップ出展企画推進委員会」を立ち上げ、企画や運営にあたる。

「リポーンチャレンジと銘打った支援を行う。万博に出展するのが目的ではなく、万博にむけて新製品や新技術を開発していく」（井上光樹同局プランナー）とし大阪産業局や大阪商工会議所をはじめ金融機関や大学など、普段から中小企業などの支援を行っている14の実施主体が26のリポーンチャレンジを通じて、万博を発表の場とするイノベーションを目指す。

一例としては西日本プラスチック製品工業協会が実施主体となり「バイオプラスチック」をテーマに中小企業やスタートアップ企業を募り、新製品・新技術を開発する。26のリポーンチャレンジで、各10社程度を成功事例として大阪ヘルスケアパビリオン内で展示をする。参加企業の募集は一巡しているが、一部現在も募集中のものがある。

「中小企業やスタートアップ企業でも『未来をつくれる』ということを伝えられるゾーンにしていきたい。企業規模に関係なく、新しいものを作り出せることを示せば、日本の99%を占める中小企業のモチベーションアップにもつながる」（井上氏）と力を込めた。



提供（公社）大阪パビリオン



大阪産業局・稲生雅哉氏（右）と井上光樹氏
大阪ヘルスケアパビリオンのポスターを手に